

「地球を遠足」しませんか

「中高年と女性のための山の遠足」という言葉を思いついたのは、ずい分昔のことになる。いまでこそ当たり前前の言葉だが、当時としては斬新な言葉としてアピールしたように思う。『山と溪谷』誌の登山教室募集のページに載せたところ、テレビ東京の「レディースフォー」のプロデューサーから電話がかかってきた。

かくて山の遠足隊が白山に登る番組ができた。バッテリーが重いのでぼくたちが持ってあげたのに、初日にがんばりすぎたカメラマン氏は2日目の下りでヒザが笑ってしまった。それもなつかしい思い出だ。

遠足倶楽部は1983年11月、サンシャインシティ文化センターで開講された山歩き教室に端を発している。今年で23年目になる。サンシャインシティ文化センターは東京新聞が経営している。東京新聞は登山情報誌『岳人』を発行している。岳人誌にぼくは山の紀行やエッセーをよく書いていたので、山歩き教室の講師を依頼されたのだった。

それまでのぼくは、岩登りや沢登りや雪山登山の世界にいた。1981年ネパールから帰国したぼくは、無名山塾を立ち上げて、「ロッククライミングと友だちになる会」「沢登りと友だちになる会」「雪山と友だちになる会」などのプログラムを作って後進指導の場とした。この無名山塾の傘下に遠足倶楽部が新たに入ることになったのだ。おかげ様で23年、岩崎はここに居場所ができたのだ。

国内はもとより、海外にも数多くでかけた。楽しいばかりで、それが大変だと思ったことはなかったのに、昨今、8時間～10時間も飛行機に乗ると、疲労を感じるようになってしまった。ヤバイ、トシだ！

と、ここまでは前書きである。そういう理由で、若いうちに(60歳前半)海外の山を稼いでおこうと思いたった。遠足倶楽部の岩崎のやることだから名付けて「地球を遠足」。

直近の遠足は、カナディアンロッキーへのスノーシューハイキングである。犬ゾリ体験ができるというので、それも楽しみにしている。添乗員なしでカルガリーまで行かなくてはいけないので、久しぶりに(昔は自分がツアーリーダーで海外の山によく出かけていた)緊張感を味あっている。

次は7月にスロベニアのユリアン・アルプス、花がきれいだという。希望者はトリグラウという岩峰に登ることもできる。

9月はアラスカだ。ノースフェイスロッジというステキなホテルがすでに予約済み。紅葉もすばらしく、運がよければオーロラをみられるとか。

シナイ山、ウィルヘルム、アバチャ山、マウナケア、マウナロアにも登ってみたい。そうそう、来年1月下旬はキリマンジャロを計画している。ぼくにとっては3回目、登ってみたいとおもっている人、岩崎と一緒にキリマンジャロとサファリを楽しみましょう。のんびりゆっくり「山の遠足」だ。